



通年コース第十五・十六回開催報告  
「炭焼き・保科山林見学」

# 『炭、材料なりの性質に』

炭は家庭の燃料用として利用されることはほとんどなくなつてしまい、夏の楽しみに1・2回するバーベキューの時くらいしかお目にかかりません。

夏休みのある日、家族でバーベキューをすることに

なりました。普段家の中では奥様の尻に敷かれがちなお父さんは、父親の威厳を取り戻すべく、がぜん張り切って川原で火熾しを始めたのでした。使おうとする炭はホームセンターで買った『オガ備

長炭』です。隣にあった割安の『マンガロブ炭』にしよ

うか迷った挙句にこちらを選んだのは、やはり『備長炭』

のブランドイメージからでしたが、それにしても200

円ノキ口程度で、それほど高価ではありませんでした。

実はこれ、オガ粉を成型して炭にしたものなんです。ね

近頃の焼肉屋さんなんかでも使われているのですが、火

付が悪く、なかなか火熾しが出来ません。奥様や子供達から催促されてようやく炭が

熾つたのは1時間後。火持

ちは本物の備長炭ほどではないにしろ結構良く、あ

らかた食材を焼き終わってもコンロが熱くて片付けられ

ません。という事で父親の威厳を取り戻せなかったお

父さんは、次回は絶対に『マンガロブ炭』にしよう

とひそかに決心したのでした。でもお父さん、『マンガ

ロブ炭』は簡単に熾すことはできるけど、よく爆ぜ

るし、少しいやな臭いもあるようです。できれば国産の黒炭にした方が良さ

すよ。炭は材料である木の性質を受け継いでいるようで、

『紀州備長炭』は水に沈むほ

ど重いとされるウバメガ

シを、窓外消火法という日本古来の製炭法で、白炭として焼き上げた、非常に硬く火持ちの良い最高級の炭です。ウナギ屋さんなどで

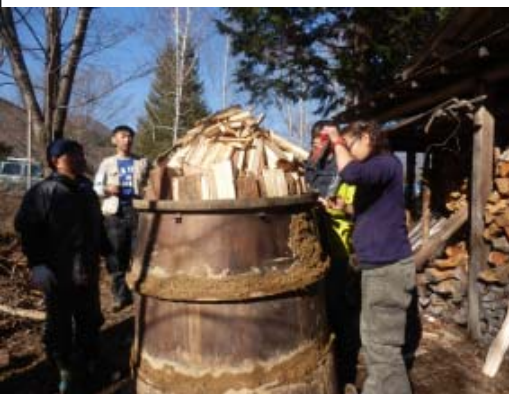
使われていますね。昨年の森林塾で作ったのはアカマツの炭で、軽くて

柔らかいアカマツの性質そのままの炭でした。アカマツ炭は灰分、特にリン分が少ないので、日本刀の鍛錬

に欠かせないほか、花火の材料となる黒色火薬にも10

〜20%の割合で混合されているという事です。それにしてもアカマツがお盆の諏訪湖を彩る花火に貢献して

いるなんて知りませんでしたね。今年使ったヒメコマツも材はアカマツと似たような性質です。この炭も黒色火薬に使用したりできるかも知れません。キリの木やハ



3段目までぎっしり詰め込む



炎が立って一安心です



窯全体に火が回りそろそろ蓋をかける

今年使ったヒメコマツも材はアカマツと似たような性質です。この炭も黒色火薬に使用したりできるかも知れません。キリの木やハ

も見学し、集会所に戻って午後3時からの窯出し。開けると煙が吹き出し、水をかけながらの作業でした。一輪車1杯の生焼けはあったものの、できた炭は59.9kgでした。炭材の投入が496kgでしたので採炭率は12%、途中サボった割にはまあ結果オライかな。

12月2・3日(金・土) 炭焼き・保科山林見学



宮下師範の指導でダブルロープ



こちらは和風あちらは欧米風

（参考）岸本定吉「炭」

通年コース第15・16回

柔らかな材でできた柔

らかい炭は研磨用にも向

いているそうです。ホオ

ノキやアブラキリの炭は

漆器の研磨に使われるよ

うですし、コシアブラの

炭がレンズ研磨剤として

使われていたと依然聞い

たことがるのですが、炭

は日常と少しかけ離れた

ところで今でも活躍して

いるようです。

参加者／青木さん、浅井さん、唐澤さん、木村さん、澤田さん、水津さん、宮下さスタツフ／早川、

# 『あととは実践、安全第一で』

## 専門コース第4回開催報告

まさかの11月の積雪の翌日、集会所や現場に行けるか不安だったのですが案ずるより産むがやすしで、鳩吹山は5cm程度の積雪、伐



十数年来の塾生



少しこわごわ初めての伐倒

倒訓練には特に支障はありません。ただ、最低気温は零下7度、スロツトルを握る右手もこわばる寒さでした。吸気マークを雪印に変えてカラマツ林に挑みました。相当に込んでいたのでここ一点で狙わないと倒れませぬ。チルホールやロープ、クサビやトビ、フェリングレバーなども駆使して徐々に空間を開けていきました。途中、川島さんのご指導

『浴びせ倒し』も試し



電柱工事の人かな？

てみました。確実に倒れる見込みがあればこれも使える技術です。枯れ枝落下などでヒヤリハットもありましたが、あととは実践あるのみ。先を読んでリスク回避を心掛けてください。

### 専門コース第4回開催 11月25・26日(金・土)

参加者/雨宮さん、沖田さん、小池さん、田中さん、吉柴さん  
スタッフ/川島、早川

### 特別寄稿

#### 『山の歌』

宮下 哲也さん



私は栃木県の日光市で生まれ育ちました。行ったことがある人はわかると思いますが、今市市と合併する前のもとの日光市は平地が無くてほとんどが山と渓谷であり、比較的傾斜の緩い場所に市街地が形成されていました。

家は山の麓でした。父親が足尾銅山関連の仕事をしていたので、山の斜面に段々畑のように造成された炭鉱長屋風の社宅に住んでいました。長屋にはお風呂が無いので毎日公衆浴場に行きました。お風呂までの行き帰りの道すがら満天の星が輝く空に見とれて何度も立ち止まりながら歩いていたのを覚えています。家のすぐ裏手には山が聳えていてサルや鹿などがよく出没していました。

小学生の頃は放課後になると森の中に基地を作ったり谷川でダムを作ったりアケビや山栗を採って食べたリ、サンショウウオを生きたまま飲み込んだり、まさに自然の中で過ごしました。中学生になってからも、部活でランニングをするときには林道を走って滝を見に行ったり、授業中にふと窓のほうを見たときにサルが窓の外から教室の中を覗き込んでいて目が合ってしまったたり、まさに大自然の中で過ごし、育

まれていました。しかしその後、高校生の時に親が家を建てたので長屋社宅を出て平地に引っ越し、やがて大都会に下宿し、就職し、それからずーっと都会で暮らしてきました。

田舎に住んでいるときは平地が無くて大きなスーパーマーケットも無い、山しかない場所でもそれがあたりまえでしたが、都会に出てしまえばくると山や渓谷が無くてそれがあたりまえになってしまいました。都会だって住めば都ですから。でも最近、何十年かぶりに趣味の登山を再開し、また山の中に入り始めたのですが、山に接するようになって昔の記憶が甦ってきました。大自然の中で育ち育まれてきた少年時代の記憶がです。

都会暮らしと山の暮らしのどちらがいいかなんて簡単に結論を出せませんが、大自然の中にあることは精神的にも肉体的にも良いことが多いような気がします。なにせ大自然はおらかで汚れていなくて美しい、植物も石も



虫も自分の知らないものばかりで何を食べても興味深々で飽きませんもの。空気も水もおいしいし森林浴をすれば気持ちも良い。

ところで、私は趣味で合唱をやっています。歌うことが大好きです。ここから先はお気に入りの『山の歌』について書かせていただこうと思います。

山の歌といってもここで取り上げるのは登山者が好んで歌う山の歌のことではありません。大自然の美しさや、『山の気持ち』を表しているような歌のことです。

『山の歌』という曲は、私の友人、地球上にあるものすべてで大きな輪の中でお互いにつながっている。あなたは山の声と一緒に歌えますか。風の色で絵を描けますか。というような内容の歌詞です。大自然を征服して支配するのでなく大自然と調和しながら共に暮らすのだというようなことを言っているようです。映画は西暦1600年頃のアメリカ東海岸が舞台で、ネイティブアメリカ

ンの女性が上陸してきた白人に対して諭すように歌うシーンに使われています。私はテレビの歌番組でこの歌のことを知りました。テレビで見たときには、『山の歌』が聞こえる。とか『風の色』で絵を描く。などというふうな口マンチックな歌詞だなあ。と思っただけでしたが、その数日後、郊外の里山にハイキングに行き、頂上に座って景色を眺めているときにこの歌の歌詞がふと思いつきました。そよ風が吹いていて気持ちの良い5月の里山の頂上でした。

ひよつとして、目を凝らしたら風の色が見えるだろうか？と思ってしまうにあなたを見回しましたが、見えません。一緒に登った中学生の娘にも『風の色が見える？』と聞いてみましたが当然ながら『見えないう。』との返事。それじゃあ山の声は聞こえるだろうか。と聞いて耳を澄ませてみました。聞こえるのは風の音、木の枝と葉っぱのザワザワいう音、鳥の声、蜜を求めて飛び回る蜂の羽音。それだけです。山の声は聞こえませんでした。

『山の歌』うなんか聞こえるわけないよね。超能力があるまいし。と自分に言い訳をしてそのまましばらく座って景色を眺めていましたが、ただ眺めているだけで



は飽きてしまうので歌詞にあつたように「大自然は私の友達だ。」と思いつながらあたりを見回してみると、ちよつとだけ今までは物の見え方が変わってきました。風に揺られてゆらゆら動いている木はまるで生きもののよう。足を歩いていくアリスもなんだかかわいらしくいとおしく思えてきました。

「あ、なんかこの感覚いいな。」空を見上げると流れる雲が水の粒ではなくて生き物のような気がしてきます。

「おおつ、これはひよつとしたら山の声が聞こえるかも。」と耳を澄ましてみました。でももう少しで山の歌う声が聞こえそうな気がしました。

山から下りて自宅に戻るとそこは家が立ち並ぶ大都会。先ほど山の上のいたときは「あともうすこしで山の歌う声が聞こえるかも」という状態だったのに、あつという間に日常の都会人としての生活に戻ってしまった私。

私もいつかは山の声と一緒に歌えるようになりたい、風の色で絵を描けるようになりたい。と思う今日この頃です。

二、私が中学生の頃、ソウルミュージックというのが流行っていました。ここで言うソウルというのは韓国の首都のことではなく英語で“魂”を意味するソウルです。ソウルミュージックには、ラブソングだけでなく社会問題を歌ったメッセージソングもあります。アフリカ系アメリカ人のグループが有名で、中でもザ・スタイリスティックスの歌がその頃は非常に流行っていました。

山から下りて自宅に戻るとそこは家が立ち並ぶ大都会。先ほど山の上のいたときは「あともうすこしで山の歌う声が聞こえるかも」という状態だったのに、あつという間に日常の都会人としての生活に戻ってしまった私。

私もいつかは山の声と一緒に歌えるようになりたい、風の色で絵を描けるようになりたい。と思う今日この頃です。

三、長野県が生んだ偉大な作家は誰？と聞かれたら私は迷わず高野辰之(たかのたつゆき)と答えます。代表作に「朧月夜」、「春の小川」、「紅葉もみじ」、「故郷」などの唱歌があります。この中で山の歌はというと、「紅葉(もみじ)」ですね。

私が少年時代を過ごした頃は高度経済成長のまっただ中で、環境破壊はさまざまのものがありました。自分たちは経済成長するために自然や環境を犠牲にしてきました。が、子孫たちにはより良い地球を遺産として相続させたい、より良い環境を残してやりたいと思う今日この頃です。

三、長野県が生んだ偉大な作家は誰？と聞かれたら私は迷わず高野辰之(たかのたつゆき)と答えます。代表作に「朧月夜」、「春の小川」、「紅葉もみじ」、「故郷」などの唱歌があります。この中で山の歌はというと、「紅葉(もみじ)」ですね。



考えてみれば、木の葉は紅葉なんかしないで緑色のまま葉っぱがポロリと落ちてもよさそうなのにわざわざ赤や黄色に色づいて我々の目を楽しませてくれるなんてちよつと思議ですね。

ヤマウルシやツタウルシなど山仕事にとつての厄介者がどういふわけか秋になるととても鮮やかに色づくのですが、何故なのでしょう。ねえ。私はウルシですよ。みなさん気を付けてください。「と自己アピールしているのでしょうか。」

秋になると山の上のほうから紅葉が色づき始めて、それがだんだん下に降りてくるわけですが、その降りてくる様子を見ながら視覚的に季節の変化を実感できるなんて、落葉広葉樹林帯に住んでいる私たちはなんて幸せなんではないでしょうか。

歌詞は、「夜の山に稲妻が走り、声が聞こえてきた。かつて緑豊かだったこの地球上に、争いや飢えや環境破壊がはびこっている。愛はどこにあるのか。山を下りて人々に告げなさい。あなた方は私の心を傷つけたと。」という

歌詞は、「夜の山に稲妻が走り、声が聞こえてきた。かつて緑豊かだったこの地球上に、争いや飢えや環境破壊がはびこっている。愛はどこにあるのか。山を下りて人々に告げなさい。あなた方は私の心を傷つけたと。」という

「もみじ」の歌詞のような美しい山、そして「朧月夜」や「春の小川」で歌われているようなどこかで平和な風景がこれからも日本のあちこちで見られるといいなあ

前号で少しご紹介がありました、柿沼です。私は4月から新潟県の阿賀町(アガマチ)というところに住んでいます。自然と無縁の場所で生活をしていた私がなぜ阿賀

町に移住をしたかといいますが、たまたま縁を頂いたからなのです。自然豊かな阿賀町、大学時代に森林関係の実習で見た木を伐る姿のカッコよさに惹かれてから林業に関わる仕事がしたいと考えていたのもあって移住を決めました。

そして阿賀町で生活しているとたびたび方言で聞き違いであります。引越したての頃、「おーい、なじだ？」と言われました。私は「3時です!!おやつ時間ですね!!」と答えたら大笑い。そんなにおやつ時間と聞いたことが面白かったのだらうかと思つてみると、「なじ」は方言でどんな具合だ?という意味だということを教えてもらいました。

慣れない土地での生活は大丈夫だろうかと気を遣つての言葉だったみたいですが、まんまと「なじ」と「なじ」の策にひっかかってしまいました。ほかの場所から

町に移住をしたかといいますが、たまたま縁を頂いたからなのです。自然豊かな阿賀町、大学時代に森林関係の実習で見た木を伐る姿のカッコよさに惹かれてから林業に関わる仕事がしたいと考えていたのもあって移住を決めました。

そして阿賀町で生活しているとたびたび方言で聞き違いであります。引越したての頃、「おーい、なじだ？」と言われました。私は「3時です!!おやつ時間ですね!!」と答えたら大笑い。そんなにおやつ時間と聞いたことが面白かったのだらうかと思つてみると、「なじ」は方言でどんな具合だ?という意味だということを教えてもらいました。





来た人は大抵間違えるそうです。そんなこんなで方言をマスターするのは時間がかかりそうです。

さて、ここで皆さんこの阿賀町と聞いてピンときましたか？おそらく阿賀町ってどこだろう?!と思われる方がほとんどだと思います。実は私もそう思っておりました(笑)。

阿賀町は福島県西会津町との境にあります。新潟県内、隣には似ている阿賀野市(ヤスタグヨーグルトが有名?)もあります。怒られそうですが、しばらくの間阿賀町と阿賀野市、混同しております。新潟県というと上側(下越)のほうです。森林はなんと町の面積の94%!!町内には温泉施設、綺麗な川、キャンプ場にスキー場などひっそりと自然を満喫したい方にうってつけな場所です。自然が豊富にあるので春は野中桜(国指定天然記念物)や山菜、夏

はホタルの観察、溪流遊びにバーベキュー、秋はブナ原生林など山々の紅葉、冬はスキーに雪山トレッキング、と、四季それぞれ楽しめます。今まで自然とは無縁の場所で生活をしていた身としては、自然を肌で感じられる毎日がとても新鮮です。山菜・木苺・栗・クルミ

山の恵みの多さに驚かされる毎日でもあります。そしてやっぱり水・米・空気がおいしい!!新潟といえは米・酒処。阿賀町も例外ではありません。日中の寒暖差がある気候でおいしいお米がある(まぼろしまい)として販売されています。ふつくらあったかいご飯がおいしいのはもちろん、冷めたごはんもおいしく頂けたのには感動を覚えました。阿賀町には下越酒造・麒麟山酒造の2つの酒蔵があります。宴会には欠かせない地元の皆さんに愛されているお酒です。酒飲めるか?の酒は大抵日本酒の意でつかわれます。淡麗辛口、すっきりとどどん飲み進めて気づいた時には3年以上熟成された純米大吟

醸のお酒もおススメです。モミジのラベルが貼ってあるだけのシンプルなデザインで、飾るだけでも素敵ですよ!!

また阿賀町は雪樁の発見・命名の地でもあり、雪樁原生林があります。雪と雪樁の幻想的な風景が垣間見られます。雪樁を使ったオイルやせっけん、枝で作られるパターナイフなどの木工品、なんと食品として雪樁うどんなど幅広くあります。ふるさと納税の返礼品でも入手できますよ。そして5月のゴールデンウィークには大イベント、『狐の嫁入り行列』があります。夕方から始まるこのイベントは、昔からの言い伝えや嫁入りの風習を元にして行われる結婚披露宴です。

『狐の嫁入り』と聞くと、天気雨のことを想像する方がほとんどだともいいます。阿賀町にある麒麟山には狐が

雪樁



雪 樁



阿賀町の魅力をお伝えしていきませんが、このほかにまだまだたくさんあります!この通信を読んでいらつしやる方は自然と関わることがお好きな方たちだと思いますので、ぜひ足を運んでいただきたいです。写真でみても、実際に体を動かして、目で見た風景の感動は何物にもかえられない財産になるはず。私も自然が好きで、自分で伐木造材ができる森林塾なんてほかにない!!と阿賀町から長野県伊那市まで足を運んでいました。集中コースを参加させていただき、本当に充実して来て甲斐のあった講習になりとても感謝しています。ラダー2段7m位も楽々のぼれたのは、自分自身もびっくりでした。チェンソーで間伐ができた喜びは大きかったです。

そろそろ雪が降る頃ですね。阿賀町も雪がたくさん積もる地域のようにです。私にとっては人生初の雪道運転。雪国の方々はどうして雪で滑って転ばないのか?!長年の疑問だった答えが見つかることを期待しています(笑)雪道運転も森林作業も安全第一に、健康に年が越せるようこれからも精進していきます。おいしい、なじんだ?皆様も健康に留意してよい年末をお過ごしください。阿賀町へもぜひ遊びに来てください!!

次回以降の予定  
通年コース第17・18回  
3月3・4日(金・土)  
伐木造材・きのこ菌打ち  
今年度最終回です。3日が伐木造材の復習、4日はきのこ修了式。菌打ちはシイタケとナメコ辺りを打つてみましょう。原木の持ち帰りも可能です。遠くからおいでの方、道路の凍結にご注意ください。8時20分。集会所

おわりに

学生時代、クラブのマネージャーの矢野先輩は部員に相談することなくいろいろ決めて来ては無理強いするので、『強引、矢野の如し』とピカイチ主将に皮肉られていました。そんな下らないことを思い出さず、師走です。後ろを向いても詮無事事。まだ今年もやるべきこと、できることはたくさんあります。さあ、焦らずに一つ一つこなしていきましょう。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望は事務局まで。  
TEL 0265-70-7061  
FAX 0265-70-7994  
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp  
sh-sakano@koanet.co.jp  
携帯:090-4463-0062(開催日)  
URL http://www.koanet.co.jp

